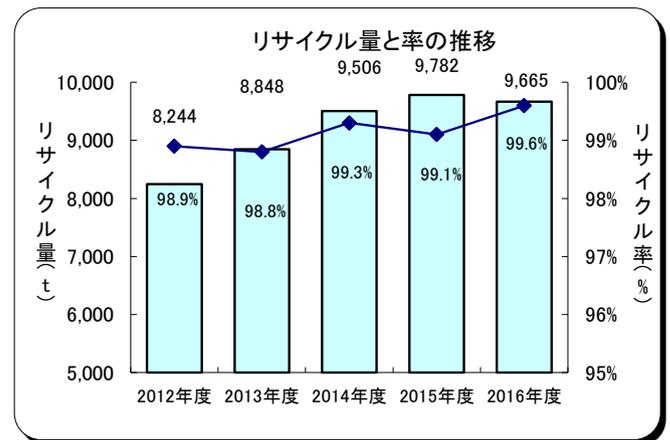
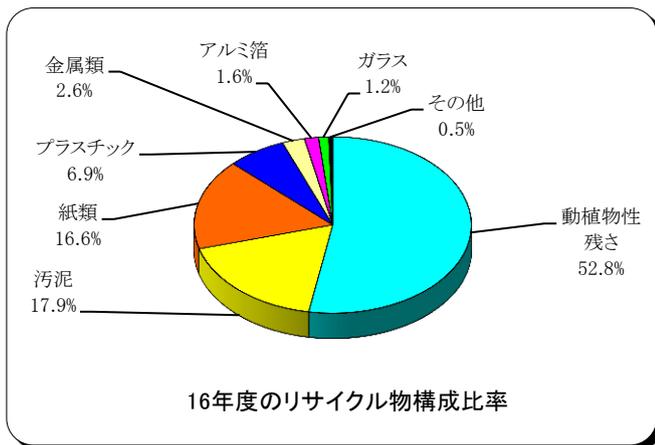


廃棄物を減らす為に

廃棄物量とリサイクル率の推移

環境に配慮し、廃棄物の発生量を減らすとともに、リサイクルの推進を行う事は、企業活動として重要なテーマになってきており、弊社でも、廃棄物のリサイクル推進による埋め立て処分量の削減と廃棄物発生量削減の取り組みを行ってきました。ISO14001の活動を開始する前の1999年度は、廃棄物全体のリサイクル率は62%でしたが、リサイクル推進の取り組みの結果、1999年度に対して2016年度のリサイクル量は約320%に増え、リサイクル率は99.6%まで向上しています。

焼却処分していた動植物性残さの肥料化、再生処理業者の新規開拓並びに社内での資源化物の分別の細分化等により、2016年度のリサイクル率は99.6%まで向上しました。今後、さらにリサイクル率を上げるため、経済性に配慮しながら推進の努力を継続しています。コーヒー飲料の製造増加により廃棄物の発生量も増加傾向にありましたが、2016年度は生産量が減少した為、廃棄物の発生量も減少しました。



廃棄物発生量とリサイクル量の推移(全工場) 単位 t

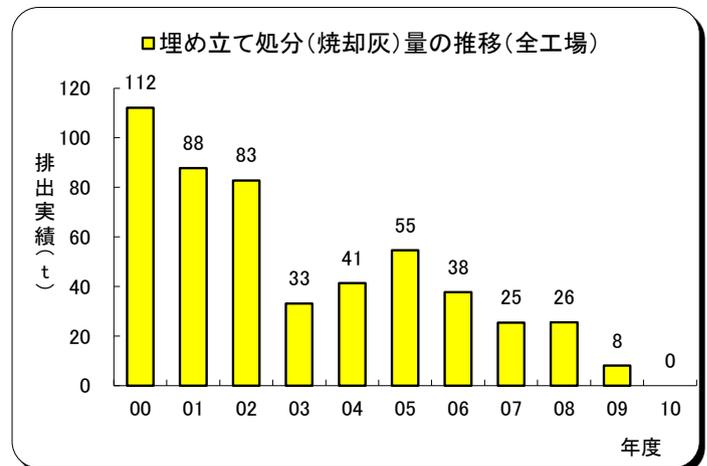
	1999年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
廃棄物量	4,832	8,332	8,952	9,570	9,869	9,704
リサイクル量	3,018	8,244	8,848	9,506	9,782	9,665
リサイクル率	62.4%	98.9%	98.8%	99.3%	99.1%	99.6%

埋立て処分している廃棄物(焼却灰)量の推移

焼却灰は、埋立て処分をしている廃棄物で最も量が多く、本社・長船工場ではISO14001の目的・目標の一つとして、2000年5月より毎年目標値を決め、削減の取り組みを行ってきました。

関東工場では焼却灰の削減というテーマには取り組んでいませんが、コピー用紙の使用量の削減、廃棄物のリサイクルの推進等の活動を行っており、結果として焼却灰の削減に繋がる活動を1999年12月より行っています。

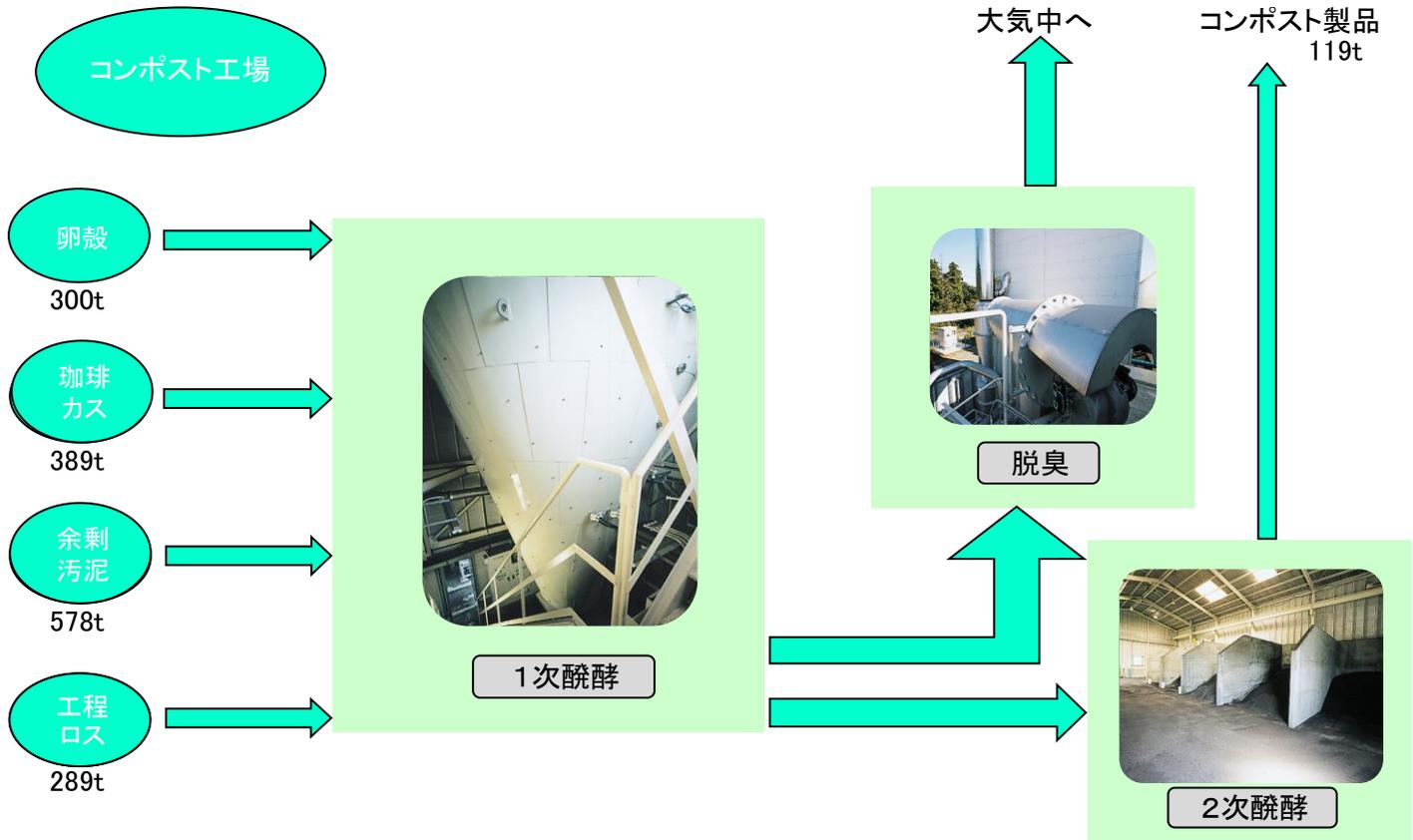
焼却灰の排出実績は、2000年度までは毎年増加していましたが、ISO14001の取り組みを開始し、2000年度以降は減少に転じており、ISO14001の取り組みの成果が見られます。2004年度以降に焼却灰の量が増減しているのは、製品廃棄ロス焼却量が増減した影響などによるものです。2009年度5月より自社焼却を中止しており、2010年度以降は、焼却灰の排出は無くなりました。



コンポスト工場

1999年11月、関東工場にコンポスト工場が完成しました。コンポストとは堆肥のことで、工場に出た排出物を堆肥にする工場です。関東工場では主に製造工程ロス、卵の殻、珈琲カス、排水処理から発生する余剰汚泥などをはっ酵させ堆肥を作ります。窒素(N)2.2%、リン酸(P)0.32%、カリウム(K)0.13%を含むこの堆肥は、主原料が牛乳や卵で有害な重金属などは殆ど含まれていません。また、土壌回復効果も高く、土壌の微生物の働きを助ける効果があります。工場からの排出物をコンポスト化し、リサイクルする事業を自社内で行っている企業は全国でもあまり例を見ません。

(下記の数量は2016年度実績)



その他のリサイクル推進活動

その他にも全工場で専門業者に委託し、以下のようなリサイクルの推進をしています。

ダンボール
コピー・プリンター用紙



古紙利用製品 新聞、トイレトペーパー
などの再生紙へ

プラスチックフィルム
プラスチック



擬木など再生プラスチック製品へ
固形燃料へ

アルミ箔



再生アルミへ

金属類



再生金属へ

廃油



再生油へ

汚泥・珈琲カス



コンポストへ